



多忙によりホルター心電図施行が 困難な患者さんに心電図記録が 有用であった例

のぞみハートクリニック 岡田 健一郎 院長

症 例

症 例：60歳、女性

主 訴：動悸

既往歴：特記事項なし

現病歴：高血圧症、甲状腺腫瘍

携帯型心電計の使用

高血圧があり、他院のかかりつけであったが、コントロール不良のため2021年4月から当院で診察することになった。

患者さんは神経質な性格で、ストレスがたまり寝不足になると、「脈が飛ぶことがある」と訴えていた。胸痛も時折あり、以前のかかりつけ病院で2020年12月に胸部CT検査を行ったが、冠動脈の有意な狭窄は見られず、降圧剤やβブロッカーなどの内服で対応していたとのことだった。

当院のかかりつけになった後、新型コロナウイルス感染症罹患や転居が重なり、強いストレス下にあった。それまでも時折動悸は自覚していたが、過去に認めた動悸とは異なる感じがあるとのことで、2022年10月19日に受診された。

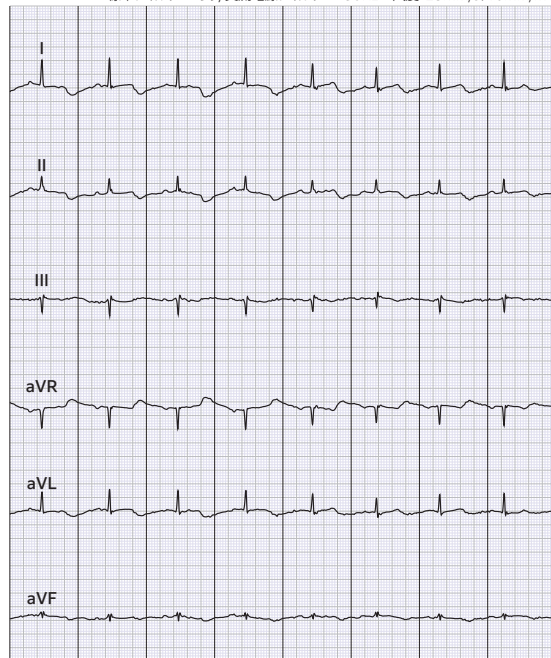
この患者さんは2021年10月にも強い動悸を訴え受診されており、その時は心エコー検査やホルター心電図検査の希望があったため、実施した。心エコー上は心臓の器質的な異常や基礎心疾患を疑う所見は見られなかった。ホルター心電図上でも不整脈は記録されなかった。

今回もホルター心電図検査の希望を確認したが、仕事が多忙なため2日連続で来院されることが難しいようで、消極的であった。一方で、以前の胸部症状とは異なる感じがあることから、不安は強かった。そのため、患者さん自身で心電図を記録できるオムロンヘルスケア社製携帯型心電計の貸し出しを提案したところ、受け入れ良好であった。

実際の使用に際しては、スマートフォンユーザーであったこともあり、困難感なく使用できた。動悸出現時に記録してもらうように伝えた。

2022年10月19日から28日までの10日間で6回記録し、全て「正常な洞調律」の解析だった。来院時に心電図記録の解析をしたところ不整脈はなく、動悸の原因はストレスや一過性の血圧高値などであると推測された。患者さん自身も記録時に解析結果を確認しており、異常がないことを確認できて安心したとのことであった。

記録日時：2022年10月21日金曜日 午前8:38:21
心拍数：64bpm 所要時間：
標準フィルタあり、交流電源フィルタ：50Hz 尺度：25mm/s、10mm/mV



解析結果：正常な洞調律

考 察

本症例のように、自覚症状がありながらも多忙を極めている患者さんの場合、2日連続の来院が必要となるホルター心電図検査は勧めにくいことがある。そのような場合でも、自覚症状を感じた時に即時に記録できる本携帯型心電計は勧めやすい。

また、自覚症状に対する不安や症状があるにもかかわらず通院できないことへの不安を抱えている患者さんは多く、すぐに解析結果を知ることができる仕様は、安心感といった精神的な負担軽減につながる点でも有用であると考えている。